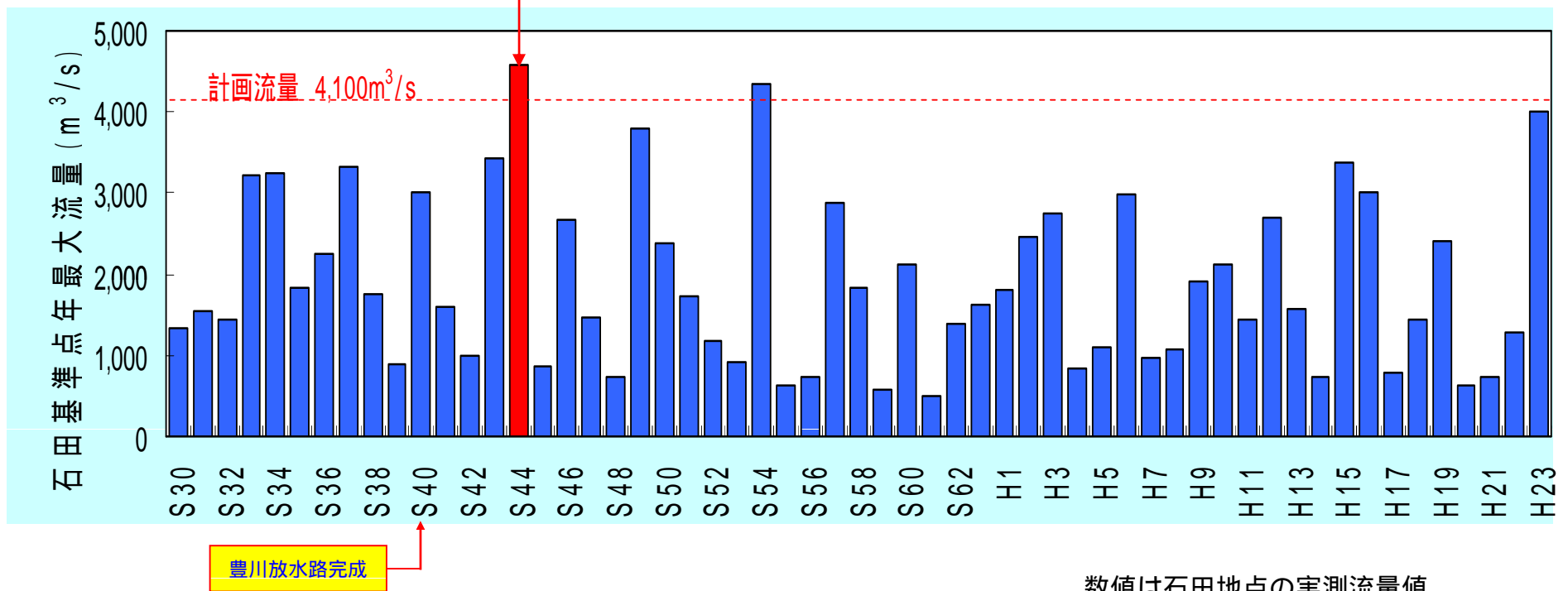


5 - 1 洪水の発生状況

豊川では、戦後最大の洪水として記録された昭和44年8月洪水をはじめとして、これまで幾度となく洪水被害に見舞われています。

昭和44年8月(旧一宮町江島)
豊川放水路の完成後においても破堤等の災害をもたらした。

豊川の年最大流量グラフ(新城市石田地点)



数値は石田地点の実測流量値
平成23年9月洪水石田地点流量は暫定値

豊川の年最大流量グラフ(新城市石田地点)

5 - 2 洪水の被害状況(1)

戦後最大の洪水（昭和44年8月洪水）では堤防が決壊し、旧一宮町（現豊川市）などで甚大な被害が発生しました。



昭和34年9月(豊橋市大村)



昭和12年7月(豊川市当古町)



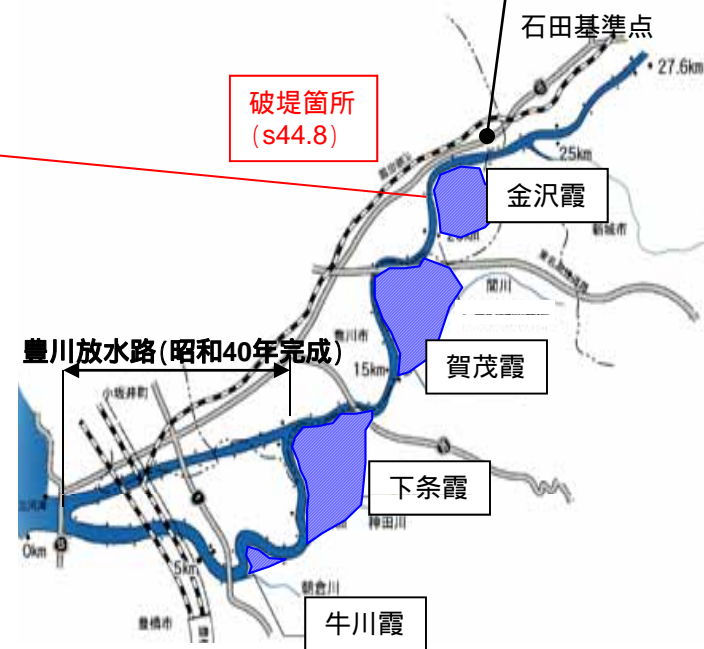
昭和43年8月(新城市豊島)



昭和28年9月(豊橋市牟呂町)



昭和44年8月(旧一宮町江島)



5 - 2 洪水の被害状況(2)

これまでも着実に河川整備を実施していますが、近年でも流域の人家や農作物などに浸水被害をもたらしています。

< 霞堤地区の現況 >



霞堤地区の浸水状況(平成15年8月:下条地区)

豊川の左岸側には、4箇所には霞堤と呼ばれる不連続な堤防があり、洪水の一部を貯留する機能を有しているが、その都度、霞堤地区は、浸水被害に見舞われている。



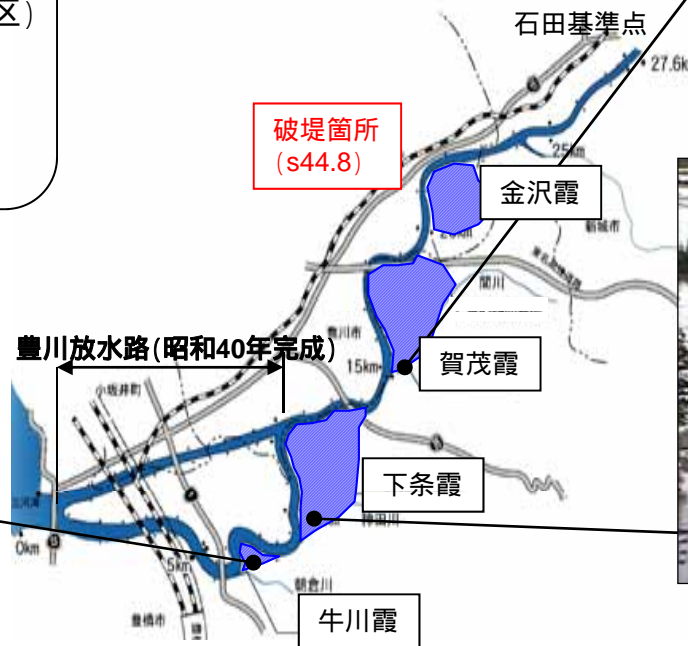
平成16年6月(豊橋市牛川町)



昭和54年10月(豊橋市石巻小野田町)



平成15年8月(豊川市三上町)



平成23年9月(豊川市下条地区)

5 - 3 豊川河川改修の経緯

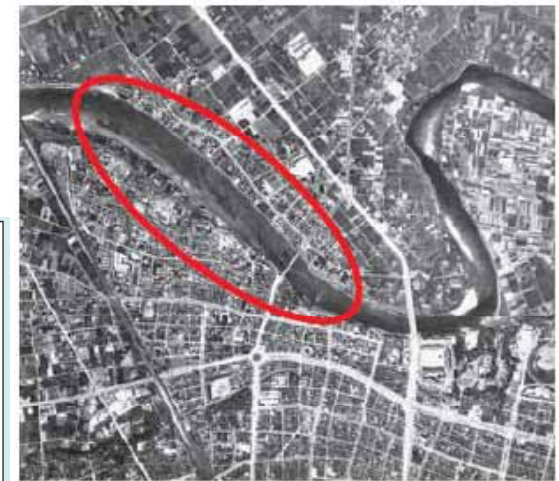
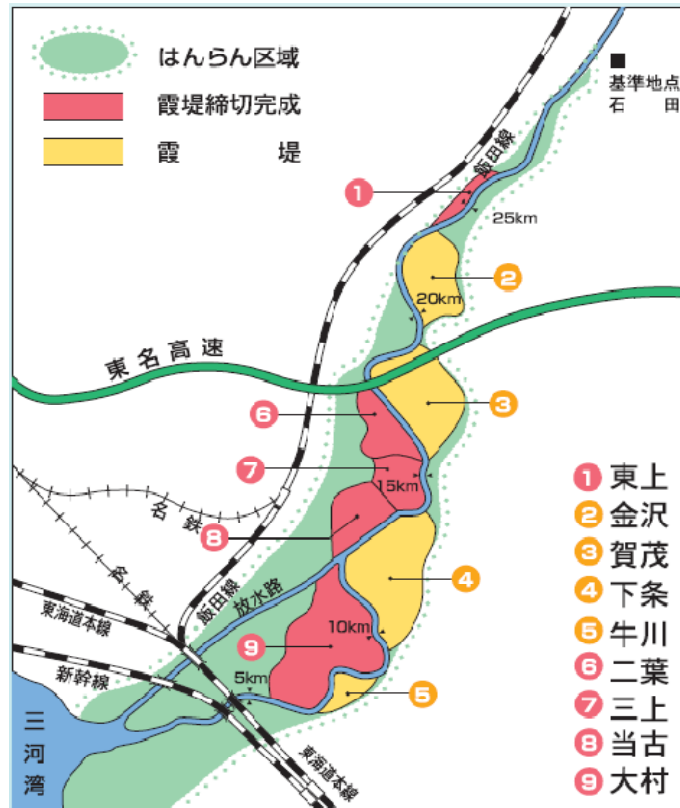
豊川では中世より霞堤を主体とした治水対策がとられてきたが、沿川では洪水のたびに甚大な被害を被ってきました。

昭和10年、12年の洪水を契機に放水路を整備(S13～40年)し右岸側4か所の霞堤を締切。昭和44年8月洪水で旧一宮町の堤防が決壊。豊橋市内の狭窄部の引堤工事(S46～62年)を実施。(約100戸の家屋移転)

このように豊川の洪水に対する安全性の向上は、長い年月をかけ、家屋の移転や土地の提供など、沿川住民の多大な協力によってもたらされています。



放水路建設時の状況



昭和30年代

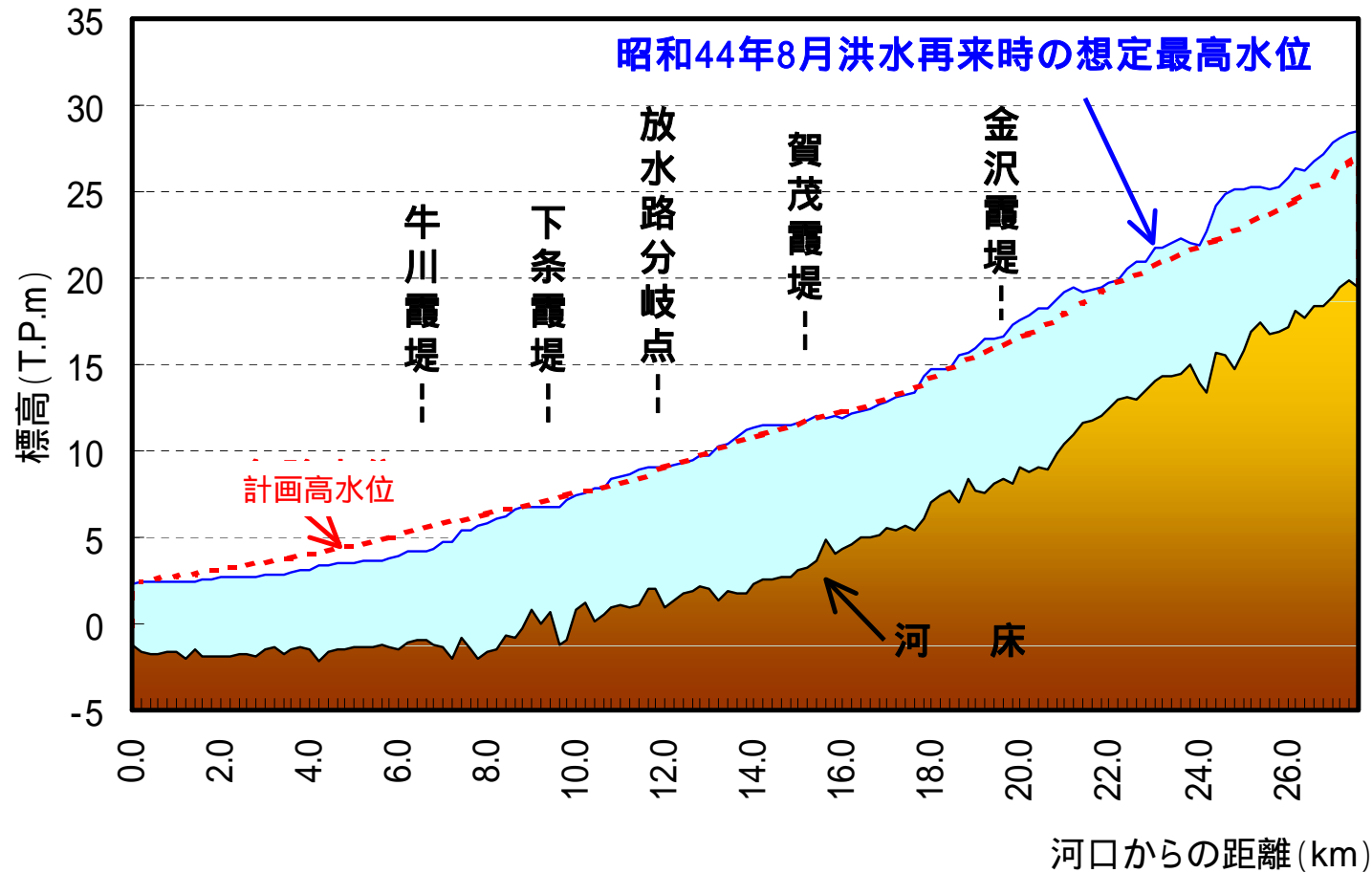


平成8年

5 - 4 河川整備の状況

整備計画策定時の河道状況で戦後最大洪水である昭和44年8月洪水が再来した場合、多くの区間で水位が計画高水位を上回ることになり、洪水被害が発生する恐れがあります。

昭和44年8月洪水が今再来した場合の最高水位



* 整備計画策定時河道

5 - 5 堤防整備の現状

河川整備計画では、設楽ダムによる洪水調節を前提に河道断面を設定しております。現時点では、この設定に基づいて、堤防の高さや幅が足りない区間や、洪水を安全に流すために必要な川の断面積の解消に努めています。

このため、設楽ダムがない状態で戦後最大規模の洪水が発生した場合には、前提としている洪水調節がないため、河川整備計画に基づく川の断面積が既に確保されている区間および今後確保する予定の区間においても、溢水や決壊の恐れがあります。



5 - 6 浸水想定区域図

この図は、豊川水系豊川の洪水予報区間について、水防法の規定により指定された浸水想定区域と、当該区域が浸水した場合に想定される水深等を示したものです。

- ・ 浸水想定面積：約5,500ha
- ・ 浸水想定区域内人口：約45,000人
- ・ 浸水想定区域内資産額：約7,200億円

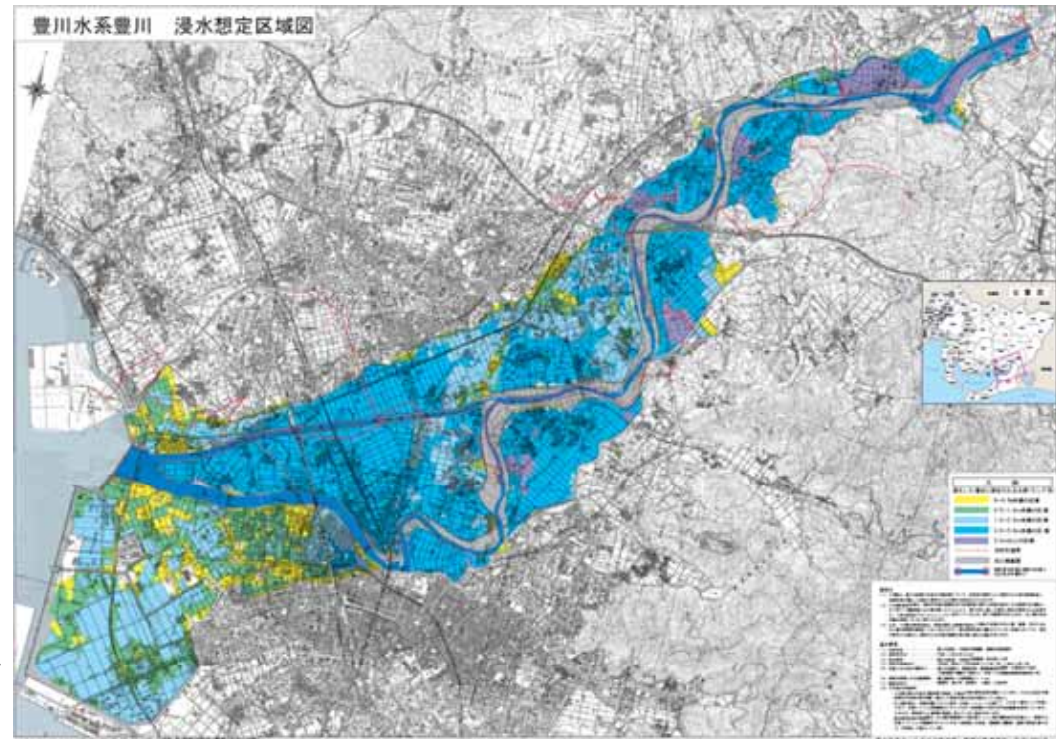
< 浸水想定区域内の主な資産 >

市 町 村：豊橋市、豊川市、新城市、
旧小坂井町

鉄 道：東海道新幹線、JR東海道本線、
JR飯田線、名鉄名古屋本線

主要道路：東名高速道路、国道1号、23号、
151号、259号、362号

豊川水系豊川 浸水想定区域図 1/150規模洪水発生時



平成14年2月28日公表済

この浸水想定区域は、現状の河道の整備状況で洪水防御に関する計画の基本となる降雨である概ね150年に1回程度起こる大雨が降ったことにより、豊川がはん濫した場合に浸水が想定される区域です。一定の条件の下でシュミレーションを行っているため、若干の誤差はあるものの、はん濫の状況は概ね再現していると考えられます。

なお、この浸水想定区域は、想定を越える降雨が発生した場合や支派川のはん濫、高潮、内水によるはん濫の影響等は考慮してはいませんので、浸水想定区域に指定されていない区域においても、浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

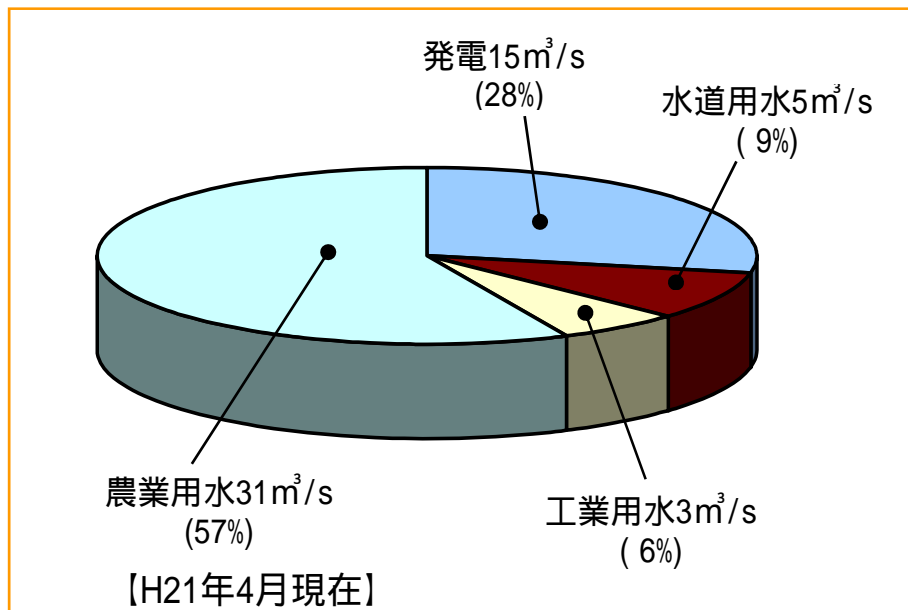
6 - 2 水利用の現状(1)

豊川水系における水利用は、最大取水量で比較すると農業用水の割合が最も多く、全体の約6割を占めています。

水道用水は、流域外である蒲郡市や田原市を含む愛知県の5市1町に供給され、給水人口は約76万人です。

農業用水及び工業用水は、愛知県の外、静岡県湖西市にも供給されています。

豊川水系の水利用の割合



(注1) 最大取水量ベースの数値

(注2) 農業用水は、かんがい期間の最大取水量

出典:「一級河川における流水占用の処分に係る取水量等調(中部地方整備局)」

水道用水給水人口



出典: H21年度愛知県水道年報より(簡易水道、専用水道を含む)